

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童通所支援事業所まなびやかけはし		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 1日		～ 令和 8年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 1日		～ 令和 8年 2月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設環境・設備・教材については充実していると思う。	いつも同じ繰り返しにならない様に工夫することや 新たなプログラムの提案に応じて 必要な教材・備品の 購入 をしている。	毎年 教材や設備費の予算を決めておく。
2	粗大運動・微細運動・手指の巧緻性・認知課題やSSTプログラムと療育課題の種類が多い。 毎回 担当者は振り返りを行い 次回のプログラムや対応について改善をしている。	支援内容について指導員それぞれの情報共有をし 指導員のスキルアップや療育プログラムの提案の 為に勉強会を行っている。	児童が飽きずに参加し 効果に繋がる支援を 意識した課題提供を心掛ける。
3	その日のお子様の様子について報告を丁寧に行っている。	保育園・幼稚園への送迎になり保護者様とお会いできない為 その日の様子や療育の取り組みについては 動画・写真 とプログラムの説明を加えてLINEで情報共有をしている。	定期的な保護者参加の勉強会や茶話会の実施の 機会を増やす。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	指導員のキャリアや能力の差がある。	有資格者の確保が難しく 療育現場未経験者が 多い。	打合せの時間を十分に取 指導係とペアで療育対応 しながら実務経験を積んで頂ける体制を整える。 事業所内での症例検討会の機会を増やし 対応方法に ついて其々が考える機会を設定する。
2	児童発達支援の受け入れ枠が少ない。	多機能型で午後の放デイの受入人数の兼ね合いで 児発の受入枠が月水木土の午前中のみになっている 点。	午前午後の児発の受入ができる体制づくり。
3	現場の状況に応じて 臨機応変な対応に切り替えられる 職員が少ないため その都度 確認や指示が必要になり その時の流れやテンポが崩れることで 児童の向き合う 意識が削がれることがある。	一人ひとりの児童に対して関わり方や活動内容での意図 や目的を共通認識になっていない。	小集団の中で何を優先し何を大事に伝えていくのか？ 各職員が共通認識が持ちスキルアップできる様に 症例検討会や実践研修会の機会の設定。